



# ippo(いっぽ)

【研究主題】 キャリア教育の視点で小・中・高を貫く教育課程の編成  
～学部間をつなぐ仕組みを活かした取組～

今回は、12月2日の公開研究協議会のワーキンググループ②分科会での話題について紹介します。

## ワーキンググループ②（中学部2・3年と高等部1年） 分科会より 協議題『指導が積み重なる中・高連携について』

### ★中学部から高等部へのつながりについて★

- ・作業学習において、年間指導計画を立てる際に中・高等部で情報交換をしている。（比内）
- ・小学部、中学部、高等部の1学級、1学習グループごとの縦割りグループで、指導計画検討会を実施している。その中で、学部の枠を越えたコラボレーションの授業が生まれる。（附属）
- ・授業改善プロジェクトチーム（学部副主事、教育専門監、研究部員）が、単元構想の話し合いから授業参観まで、全学部を見ているので、他学部の視点が入っている。（ゆり）
- ・縦割りグループでの学習機会の際に、グループごとにケース検討会を年3回程行う。年間指導計画をもとにしつつ、研究主題である「関わり」を中心に改善点を検討する。（道川）

### ★キャリア教育全体計画の活用について★

- ・キャリア教育全体計画をよりどころにすることで、子どもの将来を見据えながら今付けたい力を考えて授業づくりができると思う。
- ・学部ごとの枠があっても、児童生徒一人一人に応じた発達段階に応じて活用すると捉え、臨機応変にキャリア教育全体計画を使える（例えば、下学年対応や、発達の凸凹に応じて）という共通理解ができているとよりよい。
- ・小中学校の特別支援教育においては、キャリア教育全体計画と併せて、具体的な指導内容や年間指導計画も示されると、よりやることや目指す姿が伝わりやすいと思う。
- ・キャリア教育全体計画が全てではなく、学習指導要領や、一人一人の発達段階に応じた指導内容と併せて活用していくことが大切である。

### <指導助言>

秋田県特別支援教育課 中村 素子 指導主事より

- ・学部を越えたワーキンググループの取組は先進的であった。生徒たちのことを知っている先生たちが、身近な立場からお互いに言える環境は、お互いに取り入れていくよさがあると思う。下学年にとっては、先のイメージ（見通し）をもてることで意欲が出る。上学年が見えると、自分たちの学年をこんなふう育てていきたいという意欲ももてる。
- ・ワーキンググループの取組を通して、先生方の連続性を図ることへの意識の変化があった。この先、本当に指導が積み重なったという状態にしていくためには、年間指導計画の改善にとどまらず、計画してやったことをきちんと評価することが次のステップになると思う。
- ・次期学習指導要領でも、何が身に付いたかという評価の部分が大きく取り上げられて、学習評価の見直しさがさらに大事になる。評価の重要性を改めて考え直し、検討してみることで、今後本当に積み重なるというところに近付いていけるのではないかな。

★ 次号は、③グループを紹介します。